

活動報告書

1、2016 年度活動報告

震災から 6 年が過ぎ、農業販売額を見れば、野菜や畜産などは震災以前の水準に戻りつつある。しかし県産米の価格はいまだに全国平均よりも低く、天然キノコはいまだほとんどが解禁されていないなど、全てが復興したとは言い難い。

浜通りでは、昨年 6 月に葛尾村、7 月には南相馬市小高区が避難解除となり、さらにこの春には、浪江町、飯舘村、川俣町山木屋地区、富岡町（それぞれ帰還困難区域などの一部を除く）が避難解除となった。徐々に帰還できる範囲は広がり、一見復興は順調に進んでいるようにみえる。しかし現地に行けばあちらこちらに除染土の入ったフレコンは山積みされたままである。その上帰還した人は限られ、特に地域コミュニティがあってこそ成り立つ農業の分野においては、やっと本当の復興のスタートラインに立ったと言える。

そんな状況下で、当会は 2016 年に策定した中期計画に基づいて活動した。県内を中心に有機農家と共に歩む活動に軸足を置き、稲作、野菜、果樹、畜産など各分野の技術交流会の開催、消費者と交流に主眼を置いたエゴマの学校やモニタリングツアーなどを行った。農業者が首都圏に赴くのではなく、消費者に来県してもらい、農家との交流や福島県の農業の現状を見てもらう機会を増やすことに努めた。

また初めての試みとして有機農業映画祭の開催、首都圏や県内でみそづくりを体験するスローフード講習会などを開催した。

日本財団 NewDay 基金の支援を受けて整備する「体験交流施設」については、南相馬市鹿島区の福祉系の NPO 法人あさがおの協力を得て、同地区に整備することとなり、昨年度は交流拠点の運営計画や拠点の設計などを行った。

2、事業報告

<技術向上普及事業>

○技術交流会

- ・果樹：6 月 27 日、視察先「果樹園マルショウ」（畠理事・新地町）、ヨーロッパでは無農薬リンゴ栽培が広がっているが、モモ、ナシ、リンゴの無農薬は依然として難しい。参加者 17 名。
- ・野菜：7 月 28 日、視察先小豆畑守会員圃場（石川町）、無肥料栽培、自家採種で 20 年間 1.2ha の畑を栽培。夏野菜は長期収穫。雑草を草堆肥にして還元。自家採種は労力の 20%。参加者 19 人。
- ・稲作：8 月 9 日、中村会員（郡山）、渡部理事（会津若松）、大竹久雄氏圃場（喜多市）を視察。大規模の水田圃場を機械除草機、チェーン除草機を工夫して抑草に取り組む。農業総合センター有機農業推進室と連携しながら企画。参加者 33 人。
- ・畜産：11 月 22 日、大平理事（繁殖牛・石川町）、矢内さん（搾乳牛・石川町）を視察。地域資源を活用して家畜のいる暮らしの豊かさを実感。参加者 8 人。

- 農家の伝える力講習会（二本松市岳下センター、講師・(株) GNS 廣田拓也氏）
- 8月3日 第1回テーマ 『商品を作って伝える』
農産加工品を作る際の商品開発のポイント
参加者 14人
- 9月20日 第2回テーマ 『フェイスブックで伝える』
今の時代に合ったお金を掛けないファン作り
参加者 17人
- 11月4日 第3回テーマ 『販路開拓をして伝える』
自分たちの思いを多くの人に伝える販路開拓を考える
参加者 8人
- 1月19日 第4回テーマ 『再生産を続けて伝える』
「再生産すること」このために必要なことを考える
参加者 8人

<消費者交流・文化伝承事業>

- 有機農業映画祭&シンポジウム「みらいへ命をつなぐ」
- ・2017年2月25日（土） 福島県農業総合センター多目的ホール
 - ・上映作品「遺伝子組み換えルーレット」「みつばちからのメッセージ」
「100年ごはん」
 - ・シンポジウム登壇者 菊地将兵氏、大河原海氏
 - ・参加者 100名

○農と食の学校「エゴマの学校」（日本エゴマの会ふくしま・田村市船引町）

- 7月9日 1回 定植 参加者 10人
- 8月27日 2回 摘芯・除草 参加者 8人
- 10月22日 3回 収穫 参加者 15人
- 1月14日 4回 搾油 参加者 12人

○スローフード講習会

- 10月29日 豆料理 (東京都国立市 まんまる食堂) 参加者 25人
- 2月4日 みそづくり (東京都国立市 まんまる食堂) 参加者 33人
- 1月19日 みそづくり (二本松市岳下センター) 参加者 12人
- 2月18日 みそづくり (二本松市岳下センター) 参加者 12人

○モニタリングツアー

- 12月3日～4日 浜通りモニタリングツアー
- 南相馬市小高区・根本洗一顧問の田畑、原町区・杉内清繁理事の菜種畑、鹿島区・農家民宿塔前の家、相馬市・大野村農園、新地町・畠副理事長リンゴ畑を訪問。

参加者 10名

○ふくしま有機農業女性の会

活動概要は以下の通りであった。

4月5日	事務所の畑の開墾	参加者	7人
5月10日	畑 定植	参加者	10人
6月20日	畑 手入れ	参加者	6人
10月16日	土と平和の祭典 出店	参加者	4人
12月20日	忘年会 (エスペリ)	参加者	8人
2月15日	千の花	参加者	8人
2月25日	有機農業映画祭	参加者	100人

○ふくしまオーガニックフェスタ 2016 (二本松市・道の駅あだち)

今年度は主幹団体を外れ、協力団体として参加した。実行委員会会議場所の提供などを行った。

<営農支援事業> (詳細は別紙)

- ・販売総額 415 万円 (前年度 868 万円)
- ・純利益 64 万円 (販売の 20%程度、前年度 137 万円)

販売事業は復興支援という流れは薄まり注文が減少傾向にある。ふくしま有機ネットとしても、販売事業の拡大はしていかない方針である。

そうした中でも浜通りの支援として、あいづナチュラルフェスタ (湯川村)、グッデイマーケット (福島市)、あいかわ百姓市 (喜多方市) の各マルシェに「浜通り応援隊」ブースを用意してもらい、藍染製品、菜種油、葉物野菜などを販売した。

また阿武松部屋向けへの出荷は順調に推移した。

○有機ネット意見交換会

- ・福島市立子山自然の家開催：12月16日 7名参加。
- ・会津開催：3月13日 9名参加。会員と率直な意見交換を行った。
- ・中通り開催：3月15日 3名参加。有機農業推進室と方法交換を行った。